

通級による指導 実践事例

校種	小学校	本事例の教科等名	自立活動
<p>在籍児童生徒の実態</p>	<p>小学校3年A児 ・漢字の読み・書きに困りがある。音読では、たどたどしい読みになる。 ・姿勢を維持したり、集中したりして聞くことが苦手。活動は活発にできる。</p>	<p>目標・指導内容</p>	<p>・長く集中して、活動に取り組める。 ・漢字の違いを理解し、読めるようになる。 (心理的な安定・環境の把握)</p>
<p>指導の経過・工夫点・子どもの変容</p>	<p>※学習への意欲を持たせる工夫 ○はじめに、授業の流れを考えさせる。(今日の調子・活動・ふり返り)できるだけ活動をパターン化して、A児に見通しを持ちやすいようにする。 ○学習道具の確認をさせる。できているときには、褒めてシールを渡す。 ○集中が途切れないように、活動の間に、体をほぐす運動や目をほぐす運動などリラックスタイムを取り入れながら集中できるようにする。</p> <p>※指導の工夫 ①間違い探し・迷路…時間の最初に、どれをするかは、A児に選択させ、意欲を持たせる。間違い探しで、間違いが見つからないときには、A児からの要求を待ち、ヒントを出して探す部分を一部にする。 ②文字・絵カード…絵を見てイメージすることや聞くことはできるので、視覚の情報とともに、聴覚からの情報も入れて、読めるようにする。 ③漢字のつくり…漢字の部分ごと分け、漢字の組み立て、漢字のたしざん・引き算、漢字の仲間探しなどのプリントから、A児が選んだものをさせる。</p> <p>①間違い探し ②文字・絵カード ③漢字プリント</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="359 1317 769 1422" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>出典：宮口幸治著 コグトレみる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング 三輪書店</p> </div> <div data-bbox="785 1317 1050 1422" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>出典：杉本陽子作「漢字のフラッシュカード」</p> </div> <div data-bbox="1066 1317 1437 1451" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>出典：宮下久夫・篠崎五六・伊東信夫・浅川満著 漢字がたのしくなる本-500字で漢字のぜんぶがわかる(1)(2) 太郎次郎社</p> </div> </div> <p>※変容 ○授業の流れをパターン化することで、見通しを持ち安心して取り組み、集中の時間が長くなり、次の活動を考えることができるようになった。 ○漢字の読みに少しずつ自信を持つようになり、絵と組み合わせることで読める文字が多くなり、意欲的な態度が見られるようになった。</p>		
<p>成果と課題・今後の方向</p>	<p>※成果 ○漢字の文字・絵カードを使って、3年担任と連携をして、読みを続けることで2年生の漢字の読みが徐々にできるようになってきている。 ○板書を写す活動が、速くできるようになってきている。</p> <p>※課題 ○漢字の読みには、少しずつ自信を持ってきているが、漢字の書きは、具体的に書かせることをあまりしていない。これからの取り組みをどうしたらよいか課題である。</p> <p>※今後の方向 ○3年教室で、集中する時間が、学習内容によって差ができるため、指導の重点を決めて担任と協力して取り組む。</p>		